



2025年2月14日

各位

会社名 セーラー万年筆株式会社
代表者名 代表取締役社長 町 克哉
(コード番号 7992 東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役 管理本部長 木村 孝
(TEL 03-6670-6601)

2024年12月期通期業績予想と実績との差異に関するお知らせ 及び個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ 並びに特別損失計上のお知らせ

2024年8月8日に公表いたしました2024年12月期通期連結業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、当社、個別業績予想につきまして重要性の観点から公表を行っておりませんが、2024年12月期の個別業績につきましても、前期実績と比較して差異が生じました。更に、業績不振による収益性の低下に伴い、減損損失8億9千4百万円を特別損失に計上いたしましたので下記の通りお知らせいたします。

記

2024年12月期通期連結業績予想の修正(2024年1月1日～2024年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,655	百万円 △346	百万円 △290	百万円 △322	円 銭 △10.84
今回実績値(B)	4,677	△270	△216	△1,145	△38.65
増減額(B-A)	22	76	74	△823	-
増減率(%)	0.5	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績(2023年12月期)	4,558	△341	△329	△1,509	△50.94

●業績予想と実績との差異の理由

文具事業につきましては、販売実績が堅調である海外市場における高価格帯万年筆や、機能性・デザイン性を重視したステンレス製ペン先の万年筆など、様々な新製品を市場に投入し積極的な販売活動を行ってまいりました。その他、インバウンドの高い購買意欲にマッチした商材及びインターネット通販の売上については引き続き好調に推移しました。ロボット機器事業につきましては、特注自動化装置の大型受注等もありましたが、中国や東南アジア圏は大変厳しい状況で推移し、出口ロボットの売上計画が未達となりました。その結果、売上高についてはほぼ前回の発表通りとなりました。また、文具事業において高騰が続く金地金への対応策として、一部製品の値上げや仕様の見直しを実施し、ロボット機器事業においても各種コスト削減施策を推し進めたことが奏功し、第4四半期では利益を出すことができたため前回発表値を上回る結果となりました。しかしながら、業績不振による収益性の低下に伴い減損損失8億9千4百万円を計上することとなり、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前回発表値と実績に差異が発生しました。

2024年12月期個別業績と前期実績との差異（2024年1月1日～2024年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績（2023年12月期）（A）	4,429	△347	△336	△1,464	△49.40
今期実績（B）	4,581	△260	△206	△1,135	△38.30
増減額（B－A）	152	87	130	329	－
増減率（％）	3.4	－	－	－	－

●前期実績との差異の理由

2024年8月8日に開示しているとおり、2018年7月の西日本豪雨災害により被災した広島工場の新工場棟竣工（2022年10月）に関し、広島県及び呉市からの助成金収入5千6百万円を計上したことにより、経常利益につきまして前期実績との差異が発生しました。

●減損損失の計上について

業績不振による収益性の低下に伴い、減損損失8億9千4百万円を特別損失に計上することといたしました。

以上